

ご挨拶

ガスクロマトグラフィー研究懇談会
委員長 前田 恒昭

研究懇談会の設立 50 周年にあたる記念すべき年に保母先生から委員長を引き継ぎました。本研究懇談会は荒木峻先生（都立大学）と益子洋一郎先生（東京工業試験所）が世話人となり昭和 33 年 9 月に最初の会合が開かれました。近年の活動では、例会の開催も 1995 年に 200 回を記録し、その後年平均 6 回のペースで開催され、まもなく 300 回を迎えます。100 回を越えた辺りで一時会の存続を検討された時期もありましたが、国立衛生試験所の叶多謙蔵先生が委員長として会を継続し、物質工学工業技術試験所の竹田一郎先生に引き継がれました。新しい事業としては、運営委員の企業の協力を得てキャピラリーガスクロ講習会（実習付）を開始し、今年で 14 回、延べ約 500 名の受講者数を数えました。8 月に実施する毎年恒例になった見学会や、国際交流として日本から帰国した留学生との研究会も推進しております。現在まで活動を続け、会の役割を維持してきたことは、運営委員をはじめ多くの方々のご支援・ご協力の賜物と思います。また、これまでの長い歴史を振り返ると、時代に合わせた活動を行ってきた様子が伺え、会員が必要とし支えてきた研究懇談会であることが伺えます。

ガスクロマトグラフィーの歴史も 50 年を超え、機器の完成度もあがり、研究分野も基礎研究から応用研究へと変化してきました。分析機器の完成度が上がると共にブラックボックス化が進み、基礎的な部分を理解していなくてもある程度のデータは得られるようになりました。しかし、基礎を正しく理解することの重要性はどの時代でも変わりません。そこで、本研究懇談会では、理論と実際、用語の使い方、試料導入、分離のメカニズム、検出、データ処理など多くの貴重な情報が正しく理解され使われることを期待して「ガスクロ自由自在」の出版を行いました。キャピラリーガスクロの理解を深める実習用テキストも作成中です。また、50 年間のガスクロマトグラフィーに関わる資料を集め、アーカイブスとして提供できるよう整理を開始しました。準備が整い次第資料の提供を呼びかける予定です。研究への参加は興味を抱かないと始まりません。また、歴史を紐解くことで多くの研究課題を見つけるきっかけにもなると考えております。アーカイブスがこの為に活用されることを期待しております。

長い年月を経ており、お集まりいただけなくなった方々もおいでです。そのような方々も含め、お集まり頂いた、本研究懇談会の活動にご賛同いただいた方々、会員となり活動を支援していただいた方々、運営に積極的に参加いただいた方々、関連企業の方々などにこれまでの活動支援を深く感謝すると共に、次の 50 年に向けた一層のご支援、ご助力も重ねてお願い申し上げます。